

第1章 江東区緑の基本計画の改定にあたって

1 緑の基本計画改定の目的と背景

1) 緑の基本計画とは

- 「緑の基本計画」とは、都市緑地法第4条に規定される「市町村の緑地の保全及び緑化の推進に関する基本計画」です。
- 緑地の保全や緑化の推進に関して、その将来像、目標、施策などを定めることにより、区内の緑地の保全及び緑化の推進を総合的、計画的に実施していきます。

2) 緑の基本計画改定の目的

- 区のこれまでの取組みを整理した上で、近年の社会情勢や区の動向、区民のニーズ等を踏まえ、これに対応した今後の緑地の保全及び緑化の推進に関する取組みについて見直します。

<本計画における「みどり」の定義>

- 樹木・樹林・生垣・草花・草地などの植物を「緑」とします。それに対して、公園や広場・緑道、学校、道路などの公共空間の緑はもちろんのこと、個人の庭や住宅地・工場・社寺などの民間の土地の緑や、湿地や草地を備えたビオトープ空間、農園や田んぼなどの農的空間、さらに江東区を特徴づける水辺を加えたものを「みどり」とします。

3) 社会動向

これからの時代のみどりには、これまで以上にその機能を高め、都市の魅力づくりや課題解決に貢献していくことが求められています。

1) 社会情勢の変化

- **環境問題の進行**
地球温暖化の進行や生物の生息・生育空間の減少などを背景として、気象現象の要因となる温室効果ガスの吸収源対策や、生物多様性の保全に向けて、緑の保全と更なる創出が求められています。
- **様々な災害リスクへの懸念**
地球温暖化の進行により、ゲリラ豪雨の頻発や台風の大規模など自然災害の脅威が高まり、大規模水害や首都直下型地震等も懸念される中、公園や緑を活用した防災・減災への期待が高まっています。
- **オリンピック・パラリンピックの開催**
東京2020年オリンピック・パラリンピック競技大会等を契機として、国内外からの来訪者をおもてなし、まちの賑わい創出につなげていけるよう、みどりを活かした景観づくりや魅力あるまちづくりへの期待が高まっています。

2) 国の動向

- **新たな時代の緑の政策展開**
緑とオープンスペースによる都市のリノベーション、より柔軟に都市公園を使いこなすプランニングとマネジメントの強化、区民・事業者との連携などが、これまで以上に重視され、都市公園制度の改正により、都市公園の再生・活性化に向けて、民間活力による新たな都市公園の管理手法が創設されました。
- **グリーンインフラとしてのみどりの多機能性の発揮**
生物の生息の場の提供、良好な景観形成、気温上昇の抑制など、自然の持つ多様な機能を活用し、持続可能で魅力ある地域づくりを進めることが求められています。
- **生物多様性の向上**
生物多様性の確保の観点から、動植物の生息・生育地としての緑地の規模や連続性等を評価して緑地を配置し、エコジョルネットワークの形成を図ることが求められています。
- **水辺の活用**
河川敷地占用許可準則が改正され、水辺の賑わいづくりに向けて、事業者等による河川敷地の占用が可能になりました。

3) 都の動向

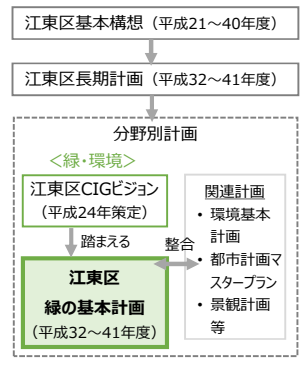
- **都市づくりのグランドデザイン**
区内の拠点・地域ごとの将来像として、魅力づくりや賑わいづくり・ゆとりある都市空間の形成等に水辺や緑を活かす考え方が示されています。
- **緑施策の新展開～生物多様性の保全に向けた基本戦略～**
量の確保のみならず、生物多様性の保全など緑の量・質ともに確保する新たな施策展開が位置づけられています。
- **東京都環境基本計画**
「世界一の環境先進都市・東京」の実現に向けて、生物多様性の保全・緑の創出等をテーマとした取組みを推進することが位置づけられています。
- **都市計画公園・緑地の整備方針**
都が整備する亀戸中央公園及び清澄公園、区が整備する大島九丁目公園の計3か所が優先整備区域に設定されています。

4) 区の動向

- **南部地域における人口増加**
区の人口は増加を続け、平成27年には50万人を突破しました。特に、南部地域では、工場跡地での大規模開発により超高層マンションが次々に建設され、人口が急増しており、今後も増加が見込まれています。
- **オリンピック・パラリンピック開催の準備**
2020年の東京オリンピック・パラリンピックでは、全43会場のうち10会場（平成30年3月現在）が江東区の南部地域に配置されます。
- **豊洲市場の開場**
平成30年10月に豊洲市場が開場し、市場関連施設のにぎわい施設や公園等の整備が予定されています。
- **大規模水害への対策**
大規模水害による犠牲者ゼロの実現に向け、「江東5区広域避難推進協議会」により、江東5区大規模水害ハザードマップ・江東5区大規模水害広域避難計画が示されました。

4) 緑の基本計画の位置づけ

- <位置づけ>
- 基本構想・長期計画の5つの政策分野のうちの、「緑・環境」に関する分野別計画に位置づけられます。
- 「緑の基本計画」と「CIGビジョン」の考え方を引継ぎながら、両者を統合し、みどりを一体的に捉えた総合計画（法定計画）として取りまとめます。



<区の上位計画・関連計画におけるみどりの位置づけ> 江東区でも、子育て・教育、観光、健康、福祉、景観、防災など多くの分野において、みどりの役割が期待されています。

● 基本構想・長期計画 区の将来像：「みんなでつくる伝統、未来 水彩都市・江東」

<緑・環境>

- **江東区環境基本計画**
「水と緑豊かな地球環境にやさしいまち」の実現に向けて、ヒートアイランド現象を緩和する「風の道の形成」や、水辺や緑地の整備によるエコジョルネットワークの形成、生き物の生息空間の確保を通じた生物多様性の保全、公園・緑地の整備、緑化推進などが位置づけられています。

<子育て・教育>

- **教育推進プラン・江東（後期）**
安心して通える楽しい学校（園）づくりに向けた施策の一つとして、「校庭の芝生化・校舎の木質化の推進」が位置づけられています。
- **江東区食育推進計画**
幼児期の食育の取組みとして、「家庭菜園などで食育が育つ様子を体験し、食育を大切に育てる」ことが位置づけられています。

<産業・生活>

- **江東区観光推進プラン（後期）**
重点プロジェクトの1つとして「水辺」の魅力活用が位置づけられ、水上交通・舟運の充実や防災船着場活用による体験・見学ツアーの実施、水辺のオープンカフェの整備、コミュニティサイクルによる湾岸エリア景観鑑賞ツアーの開催などの取組みが位置づけられています。
- **江東区オリンピック・パラリンピック開催準備プラン**
持続的な発展につながるまちづくりに向けた事業展開の一つとして、「CITY IN THE GREEN」の推進を通じた緑化の推進等による「環境への配慮」が位置づけられています。
- **豊洲地区運河ルネサンス計画書**
水辺を活かした「ふるさと豊洲」のまちづくりに向けて、水辺の賑わい空間の創出、大学との連携による親水空間の創出・研究、小学校・保育園等との連携による活動などが提案されています。

<健康・福祉>

- **江東区スポーツ推進計画**
「元氣な未来へSports Garden 江東！」の実現に向けて、水辺や公園がスポーツの場として期待されています。
- 「江東区の豊かな水辺を活かしたスポーツ振興」として区民が気軽にカヌーに乗れる環境整備を通してカヌー振興や、横十間川親水公園等における水上アスレチックやカヌー・カヤック場の整備などの施策が位置づけられています。

<まちづくり（景観・防災）>

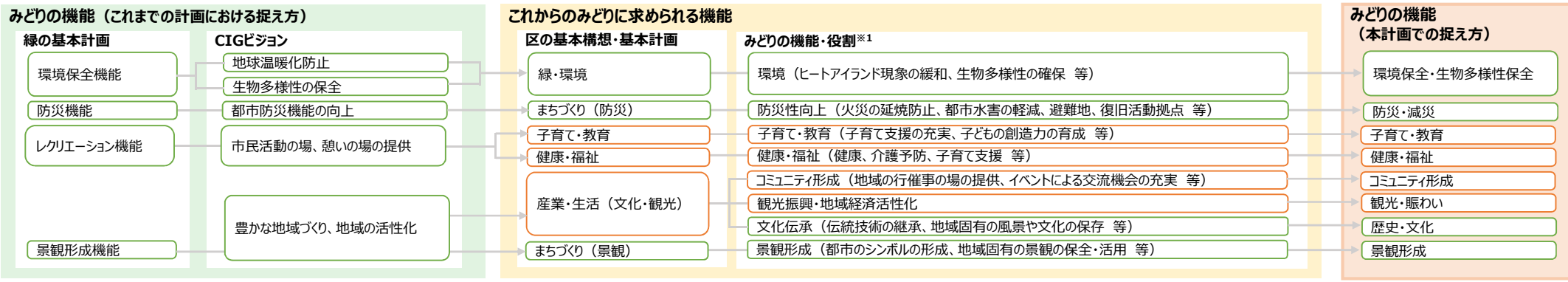
- **江東区都市計画マスタープラン**
部門別のまちづくりの1つとして、「水とみどりの都市づくり」が位置づけられ、水辺の賑わい創出等を通じた水彩都市づくり、水辺の形成等を通じた水とみどりのネットワークづくり、視覚的効果の高いみどりの形成やまちづくりと連携したみどりづくり等による「CITY IN THE GREEN」の実現などが位置づけられています。
- **江東区オリンピック・パラリンピックまちづくり基本計画**
江東湾岸エリアのまちづくりの10の視点として、「CIGを先導するまち」、「景観がブランドとなるまち」が掲げられ、みどりのネットワークの強化や競技施設の緑化推進、ペランダ緑化の実施（一家一鉢運動の推進など）、水辺の賑わい創出、水辺景観や自然資源等の景観の活用などのまちづくりの方針が示されています。
- **江東区景観計画**
景観基本軸として「臨海景観基本軸」「隅田川景観基本軸」が、景観重点地区として「深川萬年橋景観重点地区」「亀戸景観重点地区」「深川門前景観重点地区」が、景観形成特別区として「清澄庭園景観形成特別地区」「水辺景観形成特別地区」が位置づけられています。
- **江東区地域防災計画**
出火・延焼等の防止に向けた火災拡大防止計画において、防災空地の確保が位置づけられており、区立公園123か所、児童遊園5か所、区営運動場2か所、都立公園1か所が防災空地として指定されています。

2 みどりの機能

みどりの機能は従来、大きく4つ視点から捉えられてきましたが、近年はその多機能性をより多様な側面から捉えることが求められています。そこで、今回の計画改定の検討にあたって、みどりの機能を多様な側面から整理しました。

●みどりの機能の捉え方

※1：国土交通省,都市公園のストック効果向上に向けた手引き（2016.6）／国土総合研究所,これからの社会を支える都市緑地計画の展望（2016.6）から整理



環境保全・生物多様性保全

■都市気候の改善

- 東京湾に面する江東区は、海の森から吹く風の都心への入口にあたり、区内には河川や運河が縦横に位置することから、夏は海から南風が区内に流入し、風の道となる「水彩軸」を中心に気温の低下傾向がみられます。
- 大規模な公園緑地も周辺市街地より気温が低く、街路樹などは緑陰空間を形成し、都市のクールスポットとなっています。

■生き物の生息・生育の場

- 河川や運河、まとまった緑地やポケットエコスペースなどのみどりは、エコロジカルネットワークを形成する資源となっています。

【問題点】みどりの分断箇所や、水辺と市街地との連続性が低い場所があることで、風の道としての機能やエコロジカルネットワークの強化が十分に図られていません。

防災・減災

■震災時の避難

- 小さな公園や児童遊園・広場などの中には、「一時集合場所」として定められているものがあります。
- 「避難場所」として、猿江恩賜公園一帯、木場公園一帯、清澄庭園一帯など12か所が指定されています。
- 有明に位置する東京臨海広域防災公園は、大規模な災害発生時に、応急復旧活動を行う防災拠点となっています。
- 区内16か所に整備されている防災船着場は、災害時には陸上交通網の補完や物資輸送路としての役割を果たします。

■震災被害の軽減

- 接道部もブロック塀から生垣にすることで、震災時に塀が崩れる被害を防止することに役立ちます。

【問題点】首都直下地震や局所的大雨等のリスクへの対応がこれまで以上に求められる中、公園の防災機能の拡充や接道部の緑化を進める必要があります。

子育て・教育

■食育・環境学習

- 「田んぼの学校」や、えこくする江東にある小さな田んぼ、区民農園などは、こどもたちが土いじりや農を体験することで、収穫の喜びを味わい、食べ物を大切にすることを育む食育の場となっています。
- 一部の学校では、学校ビオトープや花壇づくりが行われています。

■子どもたちの健康づくり

- 校庭の芝生化は平成30年現在、29校において実施されており、子どもたちの健康づくりに貢献しています。
- 東陽公園、川南公園など7つの公園は、小学校に併設してつられ、行事や授業などで学校と一体的に利用されています。

【問題点】農体験に対する区民ニーズは高いものの、農園等の場が十分ではありません。また、学校ビオトープや花壇づくり、校庭芝生化等の取組みは、維持管理の負担などもあり、一部の学校の取組みにとどまっています。

健康・福祉

■健康づくり

- 親水公園や水辺の散歩道・潮風の散歩道、緑道等は、ウォーキング・ランニング・サイクリング等に利用され、区民の健康づくりに貢献しています。
- 「江東区ウォーキングマップ」では、緑や花を楽しむコースが多数紹介されています。

■スポーツの場

- 夢の島公園や辰巳の森海浜公園、有明テニスの森公園等の公園内のスポーツ施設は、様々なスポーツの場となっています。
- 旧中川や小名木川、堅川河川敷公園などでは、カヌーやリバーカヤック等の体験ができ、スポーツを楽しむ場となっています。

【問題点】公園や水辺は、遊具やサインの工夫、日陰の充実などの環境整備により、区民の日常的な健康づくりの場として、さらに活用される余地があります。また、川でのスポーツを楽しんでいるのは、一部の区民にとどまっています。

コミュニティ形成

■コミュニティ形成

- 公園や緑道などで、グループで花や緑を育てる「コミュニティガーデン」活動が展開されています。

■住民の交流促進

- 身近な公園や水辺は、住民同士の交流やコミュニティづくりの場にもなっている。旧中川アジサイ倶楽部の活動などは、花づくりを通した住民の交流促進につながっています。
- 「2020花と緑のおもてなしガーデニング講座」を通して、みどりを通したコミュニティづくりを担う人材育成が行われています。

【問題点】深川地域や城東地域では、コミュニティガーデン活動が一定程度普及してきたものの、南部地域の新住民については、みどりをきっかけとしたコミュニティづくりの取組みは始まったばかりです。

観光・賑わい

■観光・賑わい

- 江東区文化観光ガイドによるまちあるきツアーでは、水辺を楽しむコースが設定され、水辺が貴重な観光資源となっています。
- 木場公園や猿江恩賜公園などの大規模な公園では、様々なイベントが開催され、賑わいの拠点になっています。
- 「お江戸深川さくらまつり」では、大横川等の川沿いの桜を和船から楽しめる乗船体験が行われ、多くの人で賑わいます。
- 旧中川のアジサイ、横十間川親水公園の花ショウブ、亀戸中央公園のサザンカなど、水辺や公園には花の見所が多く、季節の花の観賞に訪れる人で賑わいます。
- 隅田川沿いの「かわらわす」は、水辺の新たな見所となっています。

【問題点】区内には、魅力あるみどりの資源が点在しているものの、江東区ならではの魅力づくりやストーリー性、魅力発信等が不足していることから、国内外から人を引き寄せる観光資源として、十分に活かされていません。

歴史・文化

■歴史や文化の継承

- 公園や水辺は、江東区の歴史や文化を伝える場となっています。
- 猿江恩賜公園や木場公園は、材木業関連企業の木場や貯木場があった歴史を伝えています。
- かつて「塩の道」と呼ばれた小名木川や、旧中川の川船番所は、江戸時代に舟運が物資の輸送手段として重要な役割を果たしていたことを伝えています。
- 古石場川親水公園、牡丹町公園などは、かつての掘割に由来するもので、水とともにあった暮らしを今に伝えています。
- 富岡八幡宮の風格あるみどりは、深川独自の風情を伝えています。

【問題点】歴史的に価値のあるみどりや、水とともにあったかつての暮らし・なりわいなど、江東区ならではの歴史や文化の魅力を知る場や機会が少なく、地域の共有財産として保全しようという機運につながっていません。

景観形成

■都市に風格を与える景観形成

- 区内の公園や水辺などは、江東区らしさを形成する景観資源となっています。
- 越中島通りのケヤキ並木や大横川沿いの桜並木など、区内の街路樹や並木は、都市に風格を与えています。
- 建築物の建設にあたっては、敷地内や屋上、壁面等に緑化を図り、周辺のみどりと連続性をもたせるなど、うるおいのある空間を創出しています。

■広がりのあるウォーターフロントの景観形成

- 豊洲をはじめとする南部地域では、広がりのある海辺を感じるウォーターフロントの景観が形成されています。

【問題点】2020東京オリンピック・パラリンピックに向けて、南部地域を中心に、国内外から訪れた人が快適に区内を楽しめるような街並みの魅力づくりや、まちの顔となるような魅力ある景観づくりを進める必要があります。

3 計画期間

平成32年度から平成41年度までの10年間とします。社会情勢の変化や新たな課題にも柔軟に対応するため、必要に応じて計画の見直しを行います。

1 江東区のみどりの現状

1) 江東区のみどりの特徴

江東区は、東京湾に接する南側の大部分が埋立地であるものの、変化に富んだみどりの環境や歴史・文化があり、みどりを守り育てる多様な主体の活動が展開されています。

【まちづくり】

●公園

- 区内には、木場公園、仙台堀川公園、猿江恩賜公園などをはじめとして、大規模な公園が充実しています。
- 水辺が豊かな江東区では、竪川河川敷公園、横十間川親水公園など、河川を埋立てて造った親水公園が多いことが特徴です。
- 季節の花が楽しめる公園、スポーツが楽しめる公園、潮風を感じながらキャンプやバーベキューが楽しめる公園、ウォーターフロントの広がりを感じられる公園、ボートやカヌー・カヤックが体験できる公園、じゃぶじゃぶ池や水上アスレチックのある公園、かつての掘割の面影を伝える公園など、特色のある公園があり、多様なレクリエーションの場となっています。



●水辺

- 小名木川や仙台堀川、竪川、横十間川など、全長32kmにのぼる河川が縦横に位置し、護岸の緑化や水辺の散歩道の整備が進められ、運河では潮風の散歩道の整備が進められています。
- 平成30年4月現在、水辺の散歩道は20.4km、潮風の散歩道は8.6kmが整備されています。これらは海の森から区内に風を送り込む「風の道」を形成していると同時に、エコロジカルネットワークの形成や、水辺と緑が一体となったうおある景観形成、散歩やランニング等の健康づくりの場としての役割も果たしています。
- 川ではカヌーやボート、和船の乗船体験、クルーズなどを楽しむことができ、賑わいつくりやスポーツ振興の場にもなっています。



●緑化（道路、公共施設、民有地等）

- 【街路樹】東京都と区により、街路樹増植計画を推進してきた結果、緑陰を提供し、風格ある街並みを形成する資源となっています。区道では、平成20年の約9,000本から概ね倍増を達成しています。
- 【公共施設】学校の校庭の芝生化や壁面緑化が進められ、ヒートアイランド現象の緩和や子どもたちの健康づくりに貢献しています。校庭の芝生化は、平成30年現在、29校において実施されています。
- 【民有地緑化】開発が進む南部地域では、緑化指導により、低未利用地の草地在質の高い緑地空間へと転換されています。豊洲市場の屋上は全面が緑化され、隣接する公園と連携し、豊かな環境づくりに寄与しています。



●生き物

- 江東区は江戸時代から埋立により造成された都市であり、公園や河川は人工的に造成してきたものですが、その中でも様々な生態系がつくられています。
- 河川や運河に生息する水鳥や、まとまった緑地に生息する鳥類、親水公園に生息する水生生物など、河川や公園が生き物の貴重な生息・成育空間となっています。
- 公園や学校の一角には、湿地や草道を備えたビオトープ「ポケットエコスペース」を整備しています（平成30年現在、52か所）。区内各所に設置することにより、野鳥や昆虫などの生育空間を拡大させる空間となっています。
- 八名川公園や森下公園では、生物多様性に考慮した在来種植栽を行い、生物多様性回復に向けた取組みを行っています。



【文化創造】

●みどりの文化

- 深川公園は、太政官布達によって明治6年に日本で最初に造られた公園の一つであり、行楽地として賑わっていた歴史があります。
- 富岡八幡宮の風格あるみどりは、深川独自の風情を伝えていきます。
- 清澄庭園は、池の周囲に築山や名石を配置した回遊式林泉庭園で、かつての大名屋敷であった歴史を感じることができます。
- 江戸城築城に際し、石置き場として使われた場所とされる古石場川親水公園や、掘割の面影を伝える木場親水公園などの公園は、川と密接だったかつての暮らしや文化を伝える資源となっています。
- かつて「塩の道」と呼ばれた小名木川や、旧中川の川船番所は、江戸時代に舟運が物資の輸送手段として重要な役割を果たしていたことを伝えています。
- 猿江恩賜公園や木場公園は、材木業関連企業の木場や貯木場があった歴史を伝えています。木場公園では、江東区の文化財に指定されている「木場の角乗」が披露され、伝統文化を伝えています。
- 「木場の香り」をテーマとする福富川公園では、丸太のいかだやアスレチック、旧水門を活かした公園入り口などがあり、木場や水辺の文化を感じることができます。
- 横十間川親水公園では、「和船友の会」により、江戸和船の文化が継承されています。



【区民生活】

●みどりに親しむライフスタイル

- 木場公園南のぼうけん広場や猿江恩賜公園では、ボランティアによりプレーパークが運営され、子どもがみどりにふれあい、のびのび遊べる場となっています。
- 「田んぼの学校」や、えこくする江東にある小さな田んぼ、区民農園などは、子どもたちが土いじりや農を体験することで、収穫の喜びを味わい、食べ物大切に育む食育の場となっています。
- 町会等が主体となって開催されている「お江戸深川さくらまつり」や「旧中川アジサイ祭り」、「リバーフェスタ江東」などの祭りでは、水辺や季節の花、舟運などを楽しむことができ、区民が身近にみどりをを感じる場となっています。
- 自宅の庭やベランダでは、区民によるガーデニングが行われています。区では、「2020花と緑のおもてなしガーデニング講座」や「ベランダガーデニング講座」等を開催し、みどりを楽しむライフスタイルの支援と普及を図っています。
- ネイチャーリーダー講座では、自然環境保全活動を行っていく際に必要な知識と技術を習得することができ、ポケットエコスペースの維持管理等で活躍する人材を輩出しています。



【協働】

●みどりを育む多様な主体

- 区内では、みどりに関わる多様な活動が展開されています。
- 「コミュニティガーデン」では、公園や緑道の植樹帯等で、グループで花や緑を育てる活動が活発に展開されています。平成30年現在、41団体・約1,000名のボランティアが活動しています。幼稚園の保護者グループ、町会やマンションが主導的に取組んでいるグループ、老人会が主体のグループ、お友達同士、企業など様々なグループがあり、花や緑を通じた地域の居場所づくりや新住民のコミュニティづくり、高齢者のやりがいづくり、子どもたちの情操教育など、多様な効果をもたらしています。
- 亀戸七丁目南公園のコミュニティガーデン活動は、マンション建設に伴う地域貢献の取組みとして民間事業者がサポートしたもので、東京都では初の官民協働によるコミュニティガーデンづくりの事例です。
- ポケットエコスペースの一部は、ボランティア団体によって維持管理されています。在来種の保全や外来種の駆除だけでなく、生きもの調査や環境教育も実施されています。
- 「田んぼの学校」では、ボランティア団体が企画運営をし、区民の方と一緒に稲作体験を行っています。
- 新木場駅のチャリティハーブガーデンは、企業の地域貢献の一環として取組まれており、ハーブを利用した加工品の売上げが江東区のみどりの活動に寄付されています。
- 企業による大規模なビオトープが整備されているところがあります。



1 江東区のみどりの現状

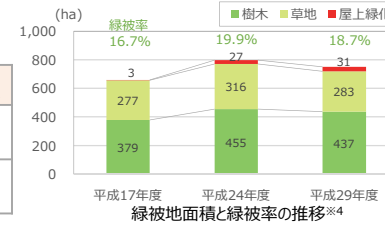
2) 現行計画の目標達成状況

■「緑の基本計画」における目標達成状況

	基準値	現状 平成30年度	目標 平成37年度
緑被率	16.68% (平成17年度)	18.71% (平成29年度)	22%
都市公園の整備量	383.14ha (平成18年度)	434.65ha※3	442ha
緑被地面積	658.37ha (平成17年度)	751.26ha (平成29年度)	869ha
緑や自然に対する 区民満足度	54.5%※1 (平成18年度)	61.1%※2	65%

■「江東区CITY IN THE GREENビジョン」 における目標達成状況

	基準値	現状 平成30年度	目標 平成31年度
緑被率	16.68% (平成17年度)	18.71% (平成29年度)	22%
緑視率	15.4% (平成25年度)	(調査中)	22%

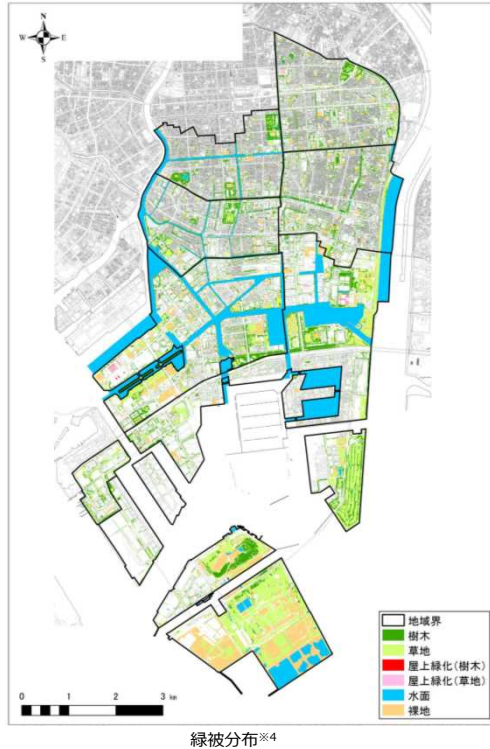


【データ出典】

- ※1:みどりに関する区民意識調査 (平成18年度)
- ※2:みどりに関する区民意識調査 (平成30年度)
⇒いずれも、緑や自然に対する満足度で「十分満足している」、「ほぼ満足している」と回答した人の割合
- ※3:東京都公園調査、都市公園面積 (海上公園含む)
- ※4:平成29年度江東区緑被率等調査報告書

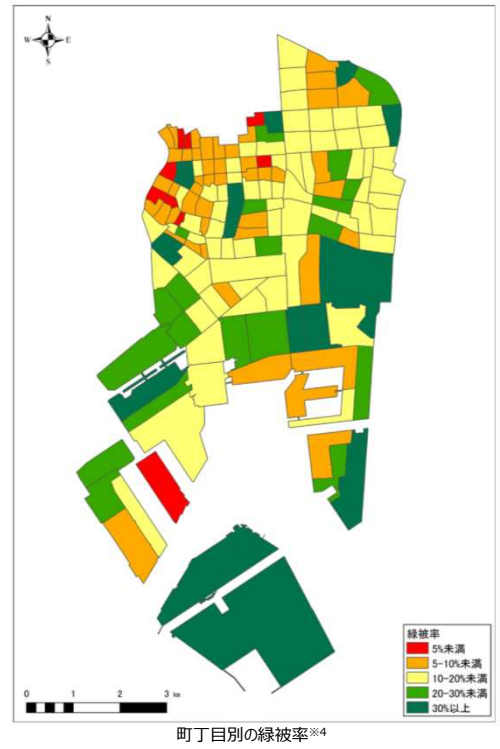
●区全体の緑被率

- 区全体の緑被率は18.7%で、計画策定時から増加傾向です。ただし、南部の大規模開発に伴う緑被地面積の減少などにより、直近の5年間は減少傾向です。
- 内訳をみると、平成24年度との比較では、屋上緑化草が増加した一方、樹木や草草が減少しています。緑化指導により、内陸部で屋上緑化が進んだ一方で、未利用地が多く残る南部地域の開発により、樹林や草草の消失がみられました。



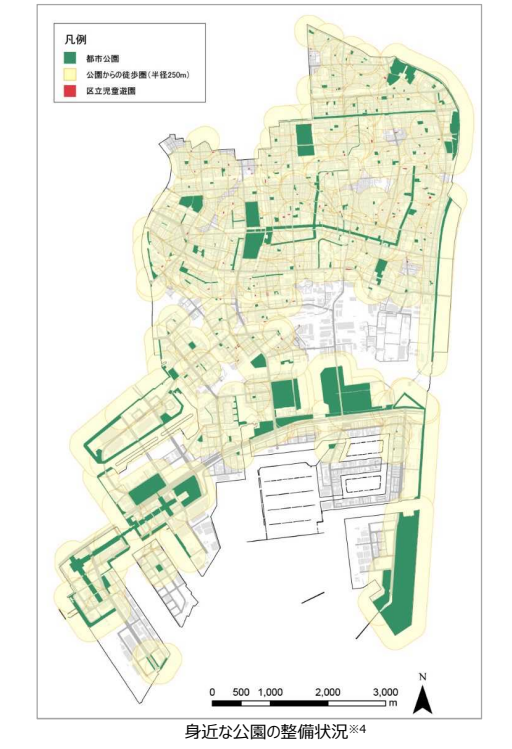
●地区別の緑被率

- 緑被率が高い地区は南部地域に多く、低い地区は深川地域や城東地域の北部に多くみられる傾向にあります。
- 緑被率が最も高いのは若洲三丁目の87%で、公園やゴルフ場が位置していることに起因します。緑被率が上位である夢の島二丁目、木場四丁目、毛利二丁目等はいずれも地区内に公園緑地が含まれています。一方、緑被率が低い深川地域の北部では、建物が密集しており、緑化余地が少ない状況です。



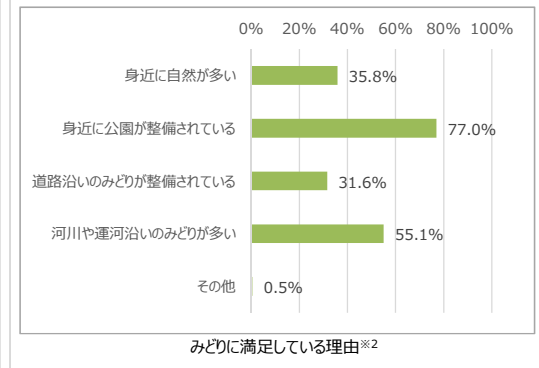
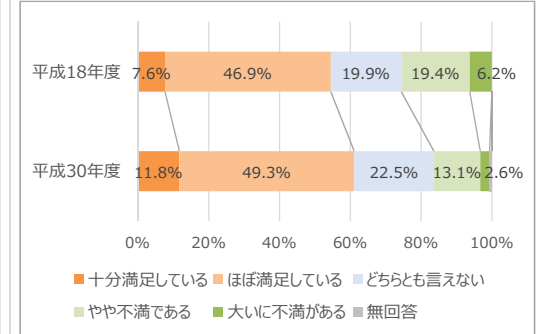
●公園の整備状況

- 区内には、平成30年度現在、都立公園7か所、区市町村立公園168か所、国営公園1か所、海上公園18か所、合計約434haが整備されています。
- 平成24年度以降、新規に増えた公園は4か所です。(有明北緑道公園、旧三大小記念公園、千石二丁目公園、豊洲るり公園)
- 身近な公園の充足状況を見ると、歩いていける距離(250m)に公園が確保されていない地域があります。



●みどりに対する区民満足度

- みどりに対する区民満足度は、平成18年度は54.5%であった一方、平成30年度は61.1%と高くなっています。
- みどりに満足している理由としては、「身近に公園整備されている」が最も多く77%を占め、「河川や運河沿いのみどりが多い(55%)」、「身近に自然が多い(36%)」、「道路沿いのみどりが整備されている(32%)」と続いています。



【目標達成状況からみた特徴】

- 緑化の推進によるみどりの増加
CIGビジョン等に基づく施策や緑化指導等の推進が、緑被率の向上に一定の成果をあげています。
- 区民満足度
公園や水辺のみどりの充実が区民満足につながっており、区民満足度の向上も、各種緑化施策の推進の成果と考えられます。

【問題点】

- 低未利用地の開発による緑被地の喪失
南部地域の低未利用地においては、草地や樹木が存在していることで緑被率が高いものの、開発に伴いみどりが消失し、緑被率が大きく変動する可能性があります。
- 緑化余地の少ない密集市街地
深川地域や城東地域の北部では、市街地が安定している一方で、建物が密集していることにより、緑化の余地が少なくなっており、大規模なオープンスペースの確保も難しい状況です。

●公園の整備の推進

着実な公園整備を進めているものの、長期未整備の公園が存在します。区が整備する「大島九丁目公園」及び都が整備する「清澄公園」は、現行計画において、整備の必要性が高い「重点公園・緑地」に位置づけられているものの、未整備の状態です。また、新たに都市計画公園・緑地の整備方針の「重点公園・緑地」に位置づけられた「亀戸中央公園」についても整備が望まれています。

●身近な公園の不足

深川地域や城東地域の既成市街地等、身近な公園が不足している地域が存在します。

1 江東区のみどりの現状

3) 施策の進捗状況

CIGビジョンでは、5つのビジョンに基づき推進プログラムを位置づけ、事業を推進していることから、ここでは5つのビジョンごとに施策の進捗状況を整理します。

【進捗状況凡例】 ●実施または実績が向上した事業 ▲実績が低下した事業 □区の事業の位置づけなし

ビジョン	主な推進プログラム	「緑の基本計画」の施策	進捗状況
【まちづくり】 1.緑の施策の強化により「緑の中の都市」が実現している	みどりの骨格とネットワーク形成	・ヒートアイランド現象緩和に向けたみどりの活用 ・エコロジカルネットワークの形成 ・ヒートアイランド現象の緩和に寄与する風の道の確保	●風の道の形成：水辺532m増、潮風784m増 ●エコロジカルネットワークの形成：水辺532m増、潮風784m増
	みどりの再生と管理	—	□公園ルネサンス ●公園芝生化：2,886m増 □緑視率を高める緑の管理など
	公園・緑地の整備	・みどりの拠点づくり(大規模公園の維持管理) ・適正配置のもとでの公園整備 ・区民に親しまれる公園としての質的向上 ・みどりの健康増進効果の普及と実践	●公園の新設：4か所(有明北緑道公園、旧三大小記念公園、千石二丁目公園、豊洲ぐるり公園)、その他児童遊園2園 □健康増進公園の整備 ●緑地の整備：仙台堀川公園の設計、公園・児童遊園の大規模改修(23か所)、小規模改修(46か所)
	河川・運河・海辺の緑化	・水辺を縁取るみどりの帯の形成 ・水辺とみどりをつなぐ歩行者ネットワークの整備 ・海辺に面したみどりの帯づくり	●河川護岸緑化：1,251m増 ●水辺・潮風の散歩道整備：水辺532m増、潮風784m増 □水辺・橋梁周辺の環境整備
	道路の緑化	・道路緑化の推進	●街路樹倍増：10,920本→17,635本 ●道路の隙間緑化：2,064m増 □シンボル並木道の整備
	公共施設の緑化	・公共施設における質の高いみどりの空間づくり	●校庭・園庭の芝生化：13校増(年々減少) ●公共施設の屋上緑化・壁面緑化：18施設増(年々減少)
	みどりと自然の調査	・区民の意識・知識の向上(区民協働による自然の情報収集)	●緑視率調査(H25,30実施) ●緑被率調査(H24,29実施) □区民自然調査員制度
【文化創造】 2.江東区ならではの「緑を育む文化」を創造している	巨木や社寺の緑の保全	・社寺林や庭園の緑の保全・育成 ・地域に親しまれている樹木や樹林地の保全・育成	▲保護樹木・保護樹林制度の充実：保護樹木10本減少、保護樹林増減なし □社寺の緑の保全・育成
	住宅団地や企業緑地の緑の保全	・団地における景観に配慮したみどりの空間づくり	□住宅団地の緑の保全と創出 □企業緑地保全制度の創出
	民有地緑化・緑のまちづくり	—	□街かど緑化 □商店街緑化モデル事業 □みどりと自然のまちづくりハウス開設
	緑化助成制度の充実	・身近な緑化の推進(接道部緑化、生垣化、壁面緑化・屋上緑化)	●緑化助成制度の充実と普及：生垣助成5件、屋上緑化助成11件 □企業による地域貢献 □優秀緑化顕彰 ●コンクールの実施：オンラインフォトコンテストの実施(応募総数543件)
	顕彰・コンクール	—	●コンクールの実施：オンラインフォトコンテストの実施(応募総数543件)
	みどりの景観形成	・水運都市のにぎわいを伝える風景づくり	●景観重点地区の緑の計画作成と助成：景観計画届の受付 □都市景観重要樹木指定の推進
	江東区独自のみどり文化の形成	—	●花の名所づくりと「江東名所花暦」の発行：こうとうコトコ日和「花暦編」2017、「春号(桜特集)」2018の発行(観光協会) □まちの記憶樹認定事業

ビジョン	主な推進プログラム	「緑の基本計画」の施策との対応	進捗状況
【区民生活】 3.「緑に親しむライフスタイル」が定着している	子どもたちがみどりにふれあい育つ環境づくり	・緑化を通じた環境学習 ・水運利用を通じた学習機会の充実 ・次世代を担う児童の意識向上	□「森のようちえん」「自然系プレイパーク」「子どもガーデナー講座」「学校林」
	子どもたちのボランティア活動	—	□小・中学生によるグリーンホリデイ
	緑のリサイクル	—	●食育・地産地消をめざした緑のリサイクル：剪定枝の再資源化(チップ生産、堆肥生産) ●CIGキャンペーン・シンポジウム開催：CIGビジョン推進キャンペーン(ペランダ緑化講座) ●小冊子・年次報告の発行：小冊子「はじめてのマンションペランダ緑化」、「もっと楽しむマンションペランダ緑化」発行 □ホームページの開設など
【協働】 4.区民・事業者・行政が一体となって推進している	みどりの普及・啓発	・みどりに関する情報発信	●みどりのコミュニティづくり：みどりのコミュニティ講座開催 ●ネイチャーリーダーの育成：ネイチャーリーダー講座 ●園芸講座の開催：みどりのコミュニティ講座開催(再掲)
	人材育成	・緑化活動をさせるリーダー養成 ・次世代のリーダー育成	●みどりのコミュニティづくり：みどりのコミュニティ講座開催 ●ネイチャーリーダーの育成：ネイチャーリーダー講座 ●園芸講座の開催：みどりのコミュニティ講座開催(再掲)
【基金活用】 5.「みどり・温暖化対策基金」を積極的に活用している	事業者が主体となった緑化活動	・区民・事業者の緑化支援 ・ポケットエコスペースの保全と新たな整備	□ワークショップによるコミュニティガーデンやポケットエコスペースの新設など
	地域が主体となった緑化活動	・区民・事業者・行政の協働による植栽や公園緑地等の維持管理活動の推奨 ・ボランティア参加者の知識や技術の向上に向けた支援	□維持管理活動からイベントの開催までの「地域による公園管理運営」の仕組み □新たな「アダプト制度」 ●町会・自治会の緑化プロジェクトチームの結成：コミュニティガーデン活動への支援(14団体増)、みどりの協定締結団体に対する助成(6団体減)
	市民団体が主体となった緑化活動	—	●学校や幼稚園・保育園での「ゲストティーチャー」や「出前授業」など：田んぼの学校運営助成、ポケットエコスペース維持管理助成
【協働】 4.区民・事業者・行政が一体となって推進している	協議体を形成した緑化活動	—	□政策提言やイベントの実施に関する「合意形成に関わる会議体の設置」 ●CIG区民サポーター会議の設置：会議開催18回
	みどり・温暖化対策基金	—	●緑化事業や温暖化対策に限定して利用し、小学校の校庭の芝生化や屋上・壁面緑化、道路や公園の緑化、地球温暖化防止設備導入補助、「ペランダ緑化」の推進などに活用：CIG事業等における基金の充当
【その他】	区民農園の拡充	・区民農園の整備	●区民農園の整備：1か所(夢の島区民農園)
	海辺・水辺利用によるにぎわいづくり	・みどりの防災機能の発揮 治水安全度の向上 ・大規模開発とあわせたまどりの確保	●旧中川・川の駅の整備 □みどりの防災機能の発揮 □治水安全度の向上 ●緑化指導と認定

※「緑の基本計画」に位置づけのある施策で、CIGビジョンに位置づけのないもの

【施策の進捗状況からみた特徴と問題点】

- ・「まちづくり」に位置づけられている緑化関連の施策は、毎年着実に実施し、量の充実が図られています。
- ・一方で、「文化創造」や「区民生活」、「協働」に関する事業の中には、未着手のものもあります。
- ・CIGビジョンに基づく取組みでは、「防災」や「農とのふれあい」をテーマとする取組みの位置づけがありません。

1 江東区のみどりの現状

4) 区民ニーズ（江東区のみどりに関するアンケート結果）

テーマ	設問	区民意向（概要）
みどりの満足度・量	みどりの満足度	<ul style="list-style-type: none"> 区内のみどりに「満足している」、「十分満足」、「ほぼ満足」の合計が62%。 満足している理由は、「身近に公園が整備されている」が最も多かった。
	身近なみどりの量	<ul style="list-style-type: none"> 「変わらない」が78%で、「増えている」、「減っている」がそれぞれ約1割を占めた。 「増えている」と感じる場所は「公園（21%）」が最も多く、「減っている」と感じる場所は「住宅地（23%）」や「道路沿い（20%）」が多かった。
	今後増やしていきたいみどり	<ul style="list-style-type: none"> 「道路沿いのみどり（42%）」が最も多く、「公園や広場（41%）」、「河川や運河沿いの散歩道（37%）」が続いた。
暮らしの中でのふれあい	みどりがあってよかったと感じるとき	<ul style="list-style-type: none"> 「季節を感じられる（86%）」が最も多く、「みどりのある景色に癒される（82%）」、「美しい街並みが保たれていて気持ちいい（61%）」、「快適に暮らせる（51%）」が続いた。 「多くの人と趣味を共有できる（14%）」、「育てる・収穫する喜びが感じられる（14%）」が最も少なく、「スポーツ活動が楽しめる（16%）」、「文化的な活動ができる（23%）」であった。
みどりに関する活動	取組んでいること・取組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> 「家の庭先やベランダでの庭木やみどりのカーテン・鉢植えづくり」、「緑道や水辺での健康づくり」は、「取組んでいる」および「取組みたい」がいずれも、20%以上を占めた。 「公園でのイベントの企画・参加」、「江東区のみどりや水辺をめぐるまちあるきツアーの企画・参加」等も、「取組みたい」が20%前後を占めた。 「カヌーなど川を楽しむ活動の企画や参加」、「農園での野菜づくり」は、「取組みたい」という回答20%であった一方、「取組んでいる」は1%前後と少なかった。 「取組みたい」が最も少なかったのは、「ポケットエコスペース（ピオトープ）の管理」で5%であった。 全体として、69%が何らかの活動に取組みたいとした。
	「取組みたいこと」の妨げ	<ul style="list-style-type: none"> 「十分な時間がない（45%）」が最も多く、「取組むために必要な情報が得られない（24%）」、「同じ関心を持った人たちと出会う機会がない（19%）」が続いた。
公園	利用頻度	<ul style="list-style-type: none"> 「年に数回程度（25%）」が最も多く、「週に1回程度（19%）」、「週に2回以上（14%）」が続いた。
	公園に求めること	<ul style="list-style-type: none"> 「大きな樹木が育ち木陰が心地よい公園（70%）」が最も多く、「子どもを安心して遊ばせることができる公園（64%）」、「自然の恵みや生きものの豊かさが感じられる公園（62%）」、「ベンチやテーブルなどが充実し、ゆくり過ごすことができる公園（56%）」が続いた。
区の施策	公園でやってみたいこと	<ul style="list-style-type: none"> 「キャンプ、バーベキュー（40%）」が最も多く、「菜園での野菜づくり（23%）」が続いた。全体として、77%が何らかの活動に取組みたいとした。
	校庭の芝生化	<ul style="list-style-type: none"> 「推進が望ましい（55%）」が半数以上を占めた。理由として「ヒートアイランド現象の緩和に役立つ（73%）」が最も多く、「子どもたちのケガが少なくなる（58%）」、「みどりのある景観に癒される（57%）」と続いた。
	ベランダガーデニング	<ul style="list-style-type: none"> 「興味はあるが、取組んでいない（32%）」が最も多く、「興味があり、既に取組んでいる」が24%、「興味がない」が18%を占めた。
	緑化を進める上で必要な取組み	<ul style="list-style-type: none"> 「自然環境を守る取組み（62%）」が最も多く、「災害に強いまちづくり（59%）」、「安全に暮らせるまちづくり（56%）」、「木陰を増やす取組み（52%）」、「健康に暮らせるまちづくり（44%）」が続いた。
	協働	<ul style="list-style-type: none"> みどりを守り育てる主体として、ふさわしいものとして、「区民と企業、行政の協働」が54%を占めた。

【区民ニーズからみた特徴と問題点】

- ・身近に公園が整備されていることが区民満足につながっています。
- ・緑地面積は増加した一方、身近なみどりの量の増加を実感している区民は1割にとどまり、住宅地や道路沿いで緑が減っていると感じるとの声もみられます。みどりが増えた場所として、「公園」を挙げる意見もあります。
- ・季節感の演出やみどりのある景観による癒し、街並み形成など、緑の存在価値は高く評価されている一方、趣味や文化的な活動・スポーツ・園芸などの活動を楽しむ場としての利用価値は、あまり評価されていません。
- ・川でのアクティビティや農園での野菜づくりなどは、取組み意向はあるものの、取組んでいる区民は少ない状況です。
- ・公園に対しては、木陰、生き物の恵み、子どもの遊び、ベンチ・テーブル、キャンプ・バーベキュー、野菜づくりなど多種多様なニーズがあります。
- ・「CITY IN THE GREENの推進」等の区の施策に対する認知度は低い状況です。
- ・緑化を進める上では、自然環境の保全とともに、災害からの安全や木陰の確保、健康づくりへの貢献などが求められています。

5) CIG区民サポーター会議・区民団体からの意見

設問	意見
公園	<ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性への配慮がない、個性がないなど、画一的な管理になっている公園がある。 ・公園の質を高めたい。そのためには、きめ細やかな管理や区民に親しみを持ってもらうためのマネジメントが必要。 ・公園はもっと柔軟に使えるとよい。小さな公園はあまり使われていないものもある。 ・虫や鳥がいる公園が理想。木陰やベンチがあるとよい。子どもの見守りや高齢者と子どもの交流につながる。
水辺	<ul style="list-style-type: none"> ・水辺は江東区ならではの資源だが、十分に活かされていない。水辺の未利用地は活かす余地がある。 ・水辺の回遊性を高めたい。遊歩道は整備されているが、日陰や休憩場所がなく、散歩したい気持ちにならない。 ・水辺と人との関わりが少ない。水辺に親しみづらい。規制を緩やかにして、開放してみてもどうか。 ・水辺がまちに解放されるとよい。水辺や公園を借景にしたレストランがあってもよい。 ・カヌーなどに乗る人が休憩できる場所が、水辺の所々にあるとよい。 ・川はすぐに氾濫し、水辺は臭くて汚く、憎い存在だったが、治水が進み、今では水辺が強みになった。
街路樹	<ul style="list-style-type: none"> ・街路樹の剪定の質が低い。モデル地区を定めて、お手本となるような街路樹づくりを推進するとよい。
緑化	<ul style="list-style-type: none"> ・白河や亀戸など内陸部では緑被率が低く、量的拡大やネットワーク化が進んでいない。 ・緑化指導は、質を担保する仕組みがあるとよい。 ・駅前には花壇をつくる等おもてなし感が出るとよい。 ・屋上を農園にしている商業施設があり、区や幼稚園、学校との連携を望んでいる。 ・マンションの屋上は農園にできるのではないかな。 ・長期間利用されていない未利用地などを暫定的に農園として活用できるのではないかな。
生物多様性	<ul style="list-style-type: none"> ・江東区には素晴らしい水とみどりの資源があるものの、ネットワークされていない。 ・江東区は生き物の生息地としてのポテンシャルが高く、それを引き出すことが大切。 ・単に増やすだけでなく、環境や生物多様性に配慮した緑地づくりが必要。 ・点在するポケットエコスペースをつなげていくことも必要。
コミュニティガーデン	<ul style="list-style-type: none"> ・江東区はコミュニティガーデンの取組みが進んでいることが特徴である。 ・江東区独自のコミュニティガーデン文化をもっと普及させたい。 ・コミュニティガーデンは、地域の交流の場づくりや高齢者の見守り、やりがいや誇りの醸成など、様々な効果がある。普段から公園を利用することで災害時の一時集合場所としての認知も浸透する。 ・マンション前や壁面など、地域の人に触れるところにもコミュニティガーデンを広げたい。 ・未活用の公営住宅の緑地などを、苗の供給基地として活用してはどうか。 ・ガーデンングを教えてくれる人がいれば、やりたい親は多い。 ・新住民は、コミュニティづくりや地域貢献に対する住民の意識が高い。
区民意識	<ul style="list-style-type: none"> ・区内には良い資源がありながら、みどりと水に対する区民の関心が低い。みどりに関心を持ってもらうことが必要。 ・みどりに関心の高い人たちと、関心の低い人たちに二極化している。 ・区民も「自分事」の意識を持ち、主体的に行動していくことが必要。 ・区民や企業を巻き込むことが必要である。 ・区民に水辺やみどりに愛着を持ってもらうためには、「魅力的」、「楽しい」という要素も大切である。 ・農業等の体験は貴重である。 ・小さい子どもに土いじりを体験させたいという親が多い。 ・みどりの情報を知ることができるポータルサイトがあるとよい。
文化・暮らし・にぎわい	<ul style="list-style-type: none"> ・みどりを暮らしや教育、まちづくりなどに活かす視点、利用価値を高める視点が重要。 ・仙台堀川公園の景色がよいため周りにマンションが建つ。みどりが資産価値を高めている。 ・水とともにあったくらしや文化があるが、今は昔に比べると子どもたちが水や自然にふれあう機会が減った。 ・歴史ある特徴的な橋や、かつての掘割の面影を伝える公園なども、江東区ならではの資源として活かしたい。 ・みどりのみどころなど人が集まる場所をつくり、イベントなどを行うことで地域のにぎわいづくりにつなげていきたい。
区民・事業者との連携・稼げる公園	<ul style="list-style-type: none"> ・企業の社会貢献を活かす仕組み、公園での販売活動で得た利益を公園の維持管理に還元するような仕組みがあるとよい。 ・水辺の景観を活かして商売をする。樹林を借景にカフェをつくるなど、民間事業者が売上目的で水辺やみどりを魅力的にする視点があってもよい。 ・水辺や公園の柔軟な利用を許容する仕組みがほしい。水辺や公園の利用手続きの簡略化をしてほしい。 ・大企業を巻き込んだみどりの活動がほしい。 ・ネーミングライツを導入するなどして、企業が公園のスポンサーになってもよい。 ・屋上にピオトープがある商業施設がある。 ・新木場には企業が整備したハーブガーデンがあり、地域との交流に役立っている。 ・江東区の会社が情報発信できる場である「江東区社会貢献ネットワーク」にみどり活動に参加してもらおうとよい。
区民活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ポケットエコスペースの維持管理は、ボランティアで担うには負担が大きい。 ・ボランティアが高齢化しており、世代交代や裾野拡大が進んでいない。 ・褒められる・やりがいを感じられる仕組みが必要。 ・区民団体の活動拠点がほしい。
人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ネイチャーリーダー養成講座の卒業生は、ピオトープの維持管理など現場の活動の担い手としての活躍が期待されるものの、実際に担い手となる人は少ない。講座の参加者は高齢者が多く、年々参加者も減っている。
計画の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・実施計画を定めて着実な事業実施を図ることが必要。

第2章 江東区みどりの現状と課題

2 課題

特徴と問題点（まとめ）

目標達成状況からの考察

【特徴】

- 1 緑被率が向上
- 2 開発時の緑化指導により、低未利用地の草地が質の高い緑地へと転換されている
- 3 公園の量も着実に増加
- 4 みどりに対する区民満足度も向上

【問題点】

- ▲1 低未利用地の開発による緑被地の喪失が今後も懸念される
- ▲2 深川地域や城東地域の北部を中心に、密集市街地では緑化余地が少ない
- ▲3 公園の不足地域が存在
- ▲4 長期未整備の公園がある

施策の進捗状況からの考察

【特徴】

- 5 緑化関連の施策は毎年着実に実施し、量が充実
- 6 水辺の散歩道や潮風の散歩道は着実に増加し、「風の道」の形成に寄与
- 7 公園の新設や改修を推進
- 8 街路樹増量を達成
- 9 学校の校庭や公園の芝生化、公共施設の緑化等により、量が増加
- 10 護岸緑化により良好な景観が形成されている
- 11 人材育成講座等により人材育成が進んでいる

【問題点】

- ▲5 量の充実に伴う維持管理の負担増大が懸念される
- ▲6 水辺の散歩道や潮風の散歩道の一部で分断箇所がみられる
- ▲7 公共施設の屋上緑化・壁面緑化は実施数は年々減少傾向にある
- ▲8 学校の校庭芝生化は、実施数は年々減少傾向にある
- ▲9 保護樹木は減少、保護樹林は横ばい
- ▲10 生垣緑化や屋上緑化は助成件数が伸び悩んでいる
- ▲11 良好な緑化を顕彰する仕組み・制度が未整備
- ▲12 「文化創造」や「区民生活」、「協働」に關する事業の位置づけがないものもある
- ▲13 「防災」や「農とのふれあい」に關して事業の位置づけがない

区民ニーズ（江東区のみどりに関するアンケート結果）からの考察

【特徴】

- 12 身近に公園が整備されていることが、みどりに対する満足につながっている
- 13 みどりが増えた場所として、「公園」を挙げる意見がある
- 14 季節感の演出やみどりのある景観による癒し、街並み形成など、緑の存在価値は高く評価されている
- 15 公園に対しては、木陰、生き物の恵み、子どもの遊び、ベンチ・テーブル、キャンプ・バーベキュー、野菜づくりなど多種多様なニーズがある
- 16 校庭の芝生化については、5割以上の区民が「推進が望ましい」としている
- 17 家の庭先やベランダでのみどりの育成に取組んでいる区民は2割以上を占めた
- 18 緑道や水辺での健康づくりに取組んでいる区民も2割以上を占めた
- 19 ベランダガーデニングについて、5割以上の区民が「興味がある」としている
- 20 緑化を進める上では、自然環境の保全とともに、災害からの安全や木陰の確保、健康づくりへの貢献などが求められている

【問題点】

- ▲14 8割近い区民が、住まいのまわりのみどりの量は「変わらない」としている
- ▲15 身近なみどりの量の増加を実感している区民は1割にとどまる
- ▲16 みどりが減っている場所として「道路沿い」や「住宅地」を挙げる声がある
- ▲17 区民から「道路沿いのみどり」、「公園や広場」、「河川や運河沿いのみどり」の増加を求める声が多い
- ▲18 趣味やスポーツ活動、文化的な活動、育てる活動など、みどりの利用価値はあまり評価されていない
- ▲19 川でのスポーツや農園での野菜づくりは、取組み意向はあるものの、取組んでいる区民は少ない
- ▲20 みどりに關する活動に取組む上で妨げになっていることとして、必要な情報が得られないことや、同じ関心を持った人と出会う機会がないといった声が挙げられている
- ▲21 「CITY IN THE GREENの推進」等の区の施策に対する認知度は低い
- ▲22 公園に求めることとして、「木陰が心地よい」、「生きもの豊かな感じが感じられる」、「ベンチやテーブルが充実している」等を挙げる声が多い
- ▲23 みどりを守り育てる主体として、「区民と企業、行政の協働」が求められている
- ▲24 緑化を進める上で「災害に強いまちづくり」や「安全に暮らせるまちづくり」を望む声が多い

みどりの機能からの考察

【特徴】

- 21 「風の道」を中心とするみどりが都市気候の改善に寄与
- 22 河川や運河、まとまった緑地、ポケットエコスペース等が、エコロジカルネットワーク形成の資源となっている。
- 23 公園や防災船着場などが防災・減災に役立っている
- 24 公園内の田んぼや学校ビオトープ・花壇などが貴重な環境教育の場となっている
- 25 みどりが健康づくりやスポーツ振興の場となっている
- 26 花や緑の育成活動が、コミュニティづくりに寄与している
- 27 公園や水辺は、各種イベントやツアー等の場として利用され、賑わいの拠点になっている
- 28 公園や水辺は、みどりに関わる江東区ならではの歴史や文化を伝える場となっている
- 29 みどりが江東区の個性豊かな景観を演出している

【問題点】

- ▲25 エコロジカルネットワーク（拠点・回廊・緩衝地区等）形成の方針が未整理
- ▲26 災害リスクへの対応として、公園の防災機能の拡充や接道部緑化を進める必要がある
- ▲27 農園での野菜づくりに対する区民ニーズは高いものの、場が十分ではなく全てを満たせていない
- ▲28 学校ビオトープや花壇づくりは一部の学校の取組みにとどまっている
- ▲29 公園や水辺は、区民の健康づくりやスポーツの場として活用の余地がある
- ▲30 南部地域では、みどりをきっかけとした新たなコミュニティづくりは始まったばかり
- ▲31 みどりの資源が点在しているが、観光資源としての魅力発信が不十分
- ▲32 みどりに關する歴史や文化の魅力について知る機会や情報発信が少ない
- ▲33 南部地域では国内外からの来訪者を迎えるための街並みの魅力づくりが不足

みどりの特徴からの考察

【特徴】

- 30 大規模な公園や特色ある公園が多く、多種多様なレクリエーションの場となっている
- 31 水辺は「風の道」としての役割を果たすと同時に、エコロジカルネットワークの形成やうるおいある景観形成、健康づくりの場等の役割も果たしている
- 32 街路樹が良好な街並み形成に寄与している
- 33 校庭の芝生化がヒートアイランド現象の緩和や子どもたちの健康づくりに寄与している
- 34 民有地緑化により、南部地域の低未利用地が質の高い緑地に転換されている
- 35 江東区ならではの生態系がつくられており、河川や運河、まとまった緑地、ポケットエコスペース等が、エコロジカルネットワーク形成の資源となっている。
- 36 公園や水辺は、みどりに關する江東区ならではの歴史や文化を伝える場となっている
- 37 みどりの育成活動や、公園や水辺でのイベントなどを通して、区民がみどりに親しむライフスタイルを楽しんでいる。
- 38 区民が主体となり、コミュニティガーデン活動が活発に展開されている
- 39 区民やNPO、企業などみどりを育む多様な主体がいる

CIG区民サポーター会議・区民団体からの意見からの考察

【特徴】

- 40 公園や水辺が江東区ならではの資源として捉えられている
- 41 コミュニティガーデン活動が活発であることが特徴的であり、地域の交流や誇りの醸成など様々な効果がある
- 42 水とともにあった暮らしや、歴史・文化の魅力がある

【問題点】

- ▲34 公園や緑地、街路樹等の質が低い（生物多様性への配慮不足、個性に乏しい、マネジメント不足、硬直化した仕組みやルール等）
- ▲35 水辺が活かされていない、ネットワーク化されていない
- ▲36 みどりの不足地域がある
- ▲37 生物多様性保全に向けて、みどりのネットワーク化が不十分
- ▲38 コミュニティガーデン活動の場が公園に限定されている
- ▲39 昔に比べると子どもたちが水や自然にふれあう機会が減った
- ▲40 みどりに対する区民の関心が低い
- ▲41 みどりを暮らしや教育、まちづくりに活かす余地がある
- ▲42 個性的な橋や水と親しんできた暮らしなど、水にかかわる歴史や文化を伝えたい
- ▲43 良好な緑化を顕彰する仕組みや活動の功績を賞賛する仕組みがない
- ▲44 稼いだ公園づくりや民間企業の社会貢献と連携したみどりの育成など、民間活力を活かす視点が不十分
- ▲45 ボランティアが高齢化しており世代交代や裾野拡大が進んでいない
- ▲46 花壇づくりやガーデニングを普及する上では指導してくれる人がほしい
- ▲47 区民活動を活性化していく上で、活動の拠点がなくネックである
- ▲48 区民が公園づくりに対して、主体的に企画したり、運営に関わったりできるとよい

背景

社会動向

これからの時代のみどりには、これまで以上にその機能を高め、都市の魅力づくりや課題解決に貢献していくことが求められています。

- 1) 社会情勢の変化
 - 環境問題の進行への対応
 - 様々な災害リスクへの対応
 - オリンピック・パラリンピックの開催を契機とした賑わいづくり
- 2) 国の動向
 - 新たな時代の緑の政策展開
 - グリーンインフラとしてのみどりの多機能性の発揮
 - 生物多様性の向上
 - 水辺の活用
- 3) 都の動向
 - 都市の魅力づくりに向けた水辺や緑の活用
 - 生物多様性の保全
 - 「世界一の環境先進都市・東京」の実現
 - 長期未整備公園の整備推進
- 4) 区の動向
 - 南部地域における人口増加
 - オリンピック・パラリンピックの受入れ
 - 豊洲市場の開場
 - 大規模水害への対策

緑の基本計画の位置づけ

<区の上位計画・関連計画におけるみどりの位置づけ>

子育て・教育、観光、健康・福祉、景観、防災など多くの分野において、みどりの役割が期待されている。

課題（案）

※2段目のカッコ内の記号と数字は、左記の特徴と問題点との対応を示しています。

水辺と一体となった緑化空間の形成が必要

（●6,10,21,22,31,35,40 ▲6,17,25,35,37）

- ・みどりの分断箇所を中心とした散歩道の整備を推進することで、水辺の緑化・ネットワーク化を推進し、ヒートアイランド現象の緩和や生物多様性の向上（エコロジカルネットワークの形成）に寄与する「風の道」の充実を図る必要があります。

多様なニーズに応える公園づくりが必要

（●3,7,12,13,15,30,36,40 ▲4,5,22,34,48）

- ・公園は区民にとって大切な資産であり、公園のあり方に対しては多様なニーズが存在する一方、公園管理の現場では落ち葉や虫への苦情や公園施設の老朽化などの問題がみられます。木陰が心地よい、自然の恵みや生き物の豊かさが感じられる、こどもを安心して遊ばせることができる、ゆっくり過ごすことができる、健康づくりに役立つなど、多様な区民ニーズに応える公園づくりが必要です。
- ・また、区民や民間事業者が公園づくりに参加できる仕組みや、Park-PFI等の活用、地域の実情に応じた公園のマネジメントが必要です。

区民が価値を実感できる質の高いみどりが必要

（●1,4,5,8,9,14,16,18,20,25,26,27,28,29,31,32,33,36,37,38,39,41,42 ▲7,8,9,10,12,14,15,16,17,18,19,27,29,30,31,33,36,38,39,41,42）

- ・みどりの量は増加している一方、それが区民に十分に実感されていないことから、これまでの“守る、増やす”だけでなく、緑化の先進モデルとなるような街路樹整備や公共施設の緑化、駅前花壇の充実によるまちの顔づくりなど、質の高いみどりの充実が必要です。
- ・また、区民がみどりの価値を実感できるよう、快適な都市環境を形成する緑陰の確保、区民が土いじりを楽しむ農体験の場の充実、みどりをとおしたコミュニティづくり、子育て支援や健康づくりに役立つみどりの充実、みどりを活かした観光振興、地域に親しまれている樹木等の保全など、みどりの価値を高める取組みが求められます。

みどりの大切さを理解してもらうことが必要

（●11,16,17,19,24,36,37,38,41,42 ▲9,12,13,18,20,21,27,28,32,40,41,42,43）

- ・区内のみどりは、季節の演出や癒しの資源としての価値は評価されている一方、趣味の共有の場や育てる喜びを感じられる場としての価値は十分に実感できていません。区民自らが地域のみどりの魅力を発見する機会の充実や、四季折々のみどりの見所の情報発信、江東区ならではのみどりの歴史・文化の普及啓発等を通して、区民のみどりの魅力や大切さを理解してもらうことが必要です。
- ・また、学校と連携した環境教育を推進するとともに、こどもたちがみどりにふれあう機会の充実や、みどりの活動やみどりに關する知識の普及啓発を図ることで、みどりを大切にす区民の意識を育んでいくことも必要です。

安全な暮らしにみどりを役立てることが必要

（●20,23 ▲2,3,13,24,26,36）

- ・災害に強く、安全に暮らせるまちづくりへの区民ニーズが高いことから、みどりが持つ防災機能を活かす、接道部緑化等による避難時の安全性の確保や、身近な公園の防災機能強化、密集市街地での適切なオープンスペースの確保、避難路や物資の輸送路としての舟運の活用などを推進することが必要です。

区民・事業者との連携を加速させることが必要

（●2,11,34,39 ▲1,2,5,11,16,17,21,23,44,45,46,47,48）

- ・緑化を推進するためには、区民がみどりの活動に参加しやすい仕組みづくりや、企業の社会貢献など、多様な主体との連携が必要です。
- ・民間活力を活かした魅力ある公園づくりや、区民や事業者と連携したまちなか緑化の推進、住宅地のみどりの育成などが求められます。
- ・また、今後も南部地域を中心に開発が進むことが予想されることから、民間の開発に合わせて良好なみどりが生み出される仕組みを充実させることも求められます。